

上げる文書である。

乍恐以書付奉願上候

御知行所上州那波郡福島村組頭清兵衛奉申上候、当村之義者日光道中裏通り利根川統ニ而、私共村方川向ニ福島御番所有之、右者松平大和守様御預り所ニ而右川筋江当州水戸下野佐野方着荷物附送り、並当国桐生町其外方諸反もの類荷物、右御番所通り込附送り、夫方同国高崎町並ニ玉村倉賀野両宿へ継送り、尤諸荷物承り候節者上福島村問屋儀左衛門方方為相知、御相給一同願番ニ而附参り御年貢上納之間合ニ仕候義者、古来方之仕来りニ御座候処、村内百姓善藏・同忠藏御合給同百姓安之助・門次郎・吉右衛門一同馴合、村役人共江ハ勿論惣高持共へ何之相談も不仕、荷主元へ書付等差入勝手俣ニ附送り候ニ付、其段敷敷相断両給馬持一同出會之上已来荷物附送り之儀者願番ニ仕候様致し度、村内百姓五兵衛宅江馬持共並ニ私御相給組頭忠右衛門一同相談罷在候所、百姓善藏儀如何相心得候哉、碇ト相談取合も不承前書御合給組頭忠右衛門私一同罷在候其席へ罷越、悉悪口雜言申募散々ニ踏散其場ヲ立去り、依之御合給組頭忠右衛門方之役人共村方名主市郎左衛門方へ罷越申聞候ハ、善藏方忠右衛門へ無謂悪口雜言被申懸ケ、難捨置候ニ付其段相断候旨申候ニ付、名主市郎左衛門、

善藏義ヲ篤ト承り糺し挨拶可仕旨申聞、先方役人共相返し早速善藏江始末相糺候得とも更々取敢不申、一鉢常々心立不宜ものニ而村内ヲ混雜為至、加之大鉢善藏儀外四人之者共ト馴合、勝手俣ニ附送り候ハバ、外馬持共一同旧来之業躰ニ相放難儀至極仕、余り不法不敵之致方ニ而御相給役人共江対し候とも此俣捨置候而ハ、村方取締ニも相拘り何共心外至極ニ奉存候間、無余義今般御訴訟奉申上候間、何卒以 御慈悲右百姓善藏被召出、大鉢悪口雜言不法之始末逸々御吟味之上以来新規之儀ヲ不相企、是迄通馬持一同ニ而附送り無難ニ永続相成候様被仰付被下置度様偏奉願上候 以上

御知行所

上州那波郡福島村

組頭 清兵衛

天保三辰年

九月廿八日

御地頭所様

御役人中衆

(福島 渡辺襄氏感)

一一七 天保三年十月 新河岸・川井河岸小夜戸村并川戸村よりの新規通船稼ぎ不許可願

勢多郡小夜戸村と吾妻郡川戸村より五料河岸まで、薪炭等運送新規通船願が出たが、新河岸・川井河岸よりは通船を反対し、寛政年度渋川河岸も不許可となり、又岩鼻新河岸願も不許可にしてほしいと願っている状況下であり、不許可にしてほしいとの願書で、両河岸の舟問屋が願い、両村の役人の名で奥書連印がある。文書により川井河岸は享保・寛保頃栄え、寛保・天明の洪水で衰え、文化度休株(開店休業)冥加金永五〇〇文上納、文政十年再興と河岸の盛衰状況がよくわかる。

右船問屋共一同奉申上候、今般

山本大膳様御代官所当国勢多郡小夜戸村百姓正八・外巻人與同国吾妻郡川筋川戸村方利根川通五料河岸迄、新規通船試稼之儀願上候旨、右川筋通船所開ニ相成候得者、炭・薪等御府内廻ニ相成弁利ニ相成候旨、尤通船始候而者は迄、駄賃稼等差障候儀ニ御座候ハバ、巨細可申上旨ニ而故障有無可申出旨被 仰渡承知奉畏、左ニ始末奉申上候

一 新河岸・川井河岸之儀者烏川附ニ而是迄、最寄船積荷物、三国通・越後筋並沼田町・白井町近在・吾妻郡原町・中之条辺方渋川町江出、下道通者八木原・惣社・玉村宿江、掛登り下り諸荷物引受船積請拂仕来り候処、近年下道通往来荷物悉ク相減、上道通金子宿方高崎・倉賀野河岸ニ而專船

積ニ相成、同所方烏川通船ニ而江戸廻船ニ相成候処、同所問屋共等及示談ニ倉賀野出荷物ヲ中継ニ貫請 此荷物ヲ両河岸共ニ大小之船持共当分稼取統居、此未陸付荷物川戸村方五料河岸迄船廻ニ相成候而者、河岸渡世ニ相離、船御年貢上納不及申上ニ、小前一同困窮難渡至極仕候

一 川井河岸奉申上候、当河岸之儀寛永元子年中取立候由申傳ニ承り申候、夫方寛保度迄者悉ク繁栄之様子ニ御座候処、同二戌年利根川・烏川大水ニ而次第ニ困窮仕、然ル処天明度浅間焼泥押ニ而武州之方江川附寄弁利甚々悪相成、問屋共一同必至與難渡仕候ニ付、右之段御公辺江奉願上候処、御代官稲垣藤四郎様御見分之上文化度休株被 仰付、其節方為冥加與壹ヶ年ニ永五百文ツツ御上納致居候処、近